

思考力・表現力の育成

【行田市教育委員会】

- 1 学校、学年、教科 小学校、全学年、算数
- 2 ねらい 算数科を通し課題を解決するために必要な思考力・表現力等の能力を育み、主体的に学習に取り組ませるための実践

3 取組内容

普段の授業や研究授業の中で、ねらいにせまるための実践を積み重ねてきたことで児童が少しずつであるが、課題解決に向けた取組ができるようになってきた。子どもたちに「できた・分かった」の喜びや楽しさを味わわせたい、算数が好きな子どもを育てたいと願いつつ、次のような取組を行ってきた。

(1) 算数科の授業において

目標を「問題解決的学習の過程において必要な力を身に付けさせれば、児童の思考力・表現力が高まるであろう」とし、その手立てを次のようにした。

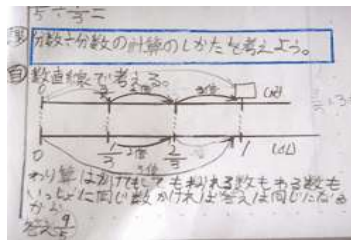
手立て1

問題文から関係性を見出し、図や式に表現できる能力の育成

問題文の内容を図るためには、導入の工夫が大切であると考え、様々な方法で提示してみた。問題文の読み取りについては、条件を取り出して整理できるようにし、図や式、数直線に表す活動を繰り返すことにより、問題の焦点化を図り、見通しをもって自力解決に取り組めるようになった。



〈問題場面の条件の整理〉
ビデオを使った導入の工夫



〈関係性の整理〉
図や式に表現



教具を利用して視覚的に提示

手立て2

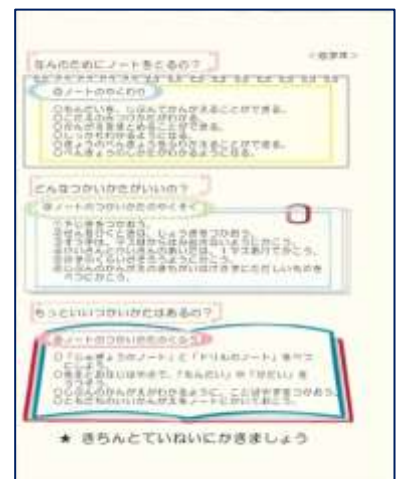
自分の考えを筋道を立てて表現できるノート指導の充実

ノート指導では、低・中・高学年別に、「何のためにノートをとるの」「どんな使い方がいいの」「もっといい使い方はあるの」という、ノートの意義、活用方法、発展についてノートの役割を児童に提示し、ノートの重要性を意識付けた。

ノートの書き方を全校で統一し、日付、問題、課題、自分の考え、友だちの考え、まとめ等に整理する。問題は黒、課題は青、まとめは赤の線で囲み、振り返った時に分かりやすいノートになるようにした。そして、学年のめあてに従ってノートの使い方を指導した。

- 低学年は、きちんと丁寧にかこう。
- 中学年は、自分の考えを自由に書こう。
- 高学年は、自分の考えを深めるためのノートの使い方を工夫しよう。




図や線を使って自力解決を図ったり、説明を書き加えたり、気づいたことをメモできることが望ましいと考え指導した。ノート指導のためには、板書の工夫も大切であり、問題、課題、まとめの流れを分かりやすくした。



手立て3

自分や友だちの考えのよさに気付く学び合いの工夫

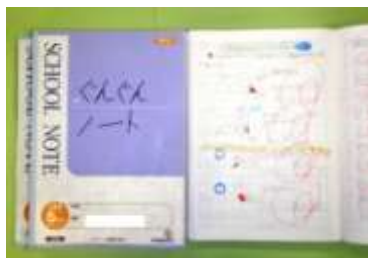
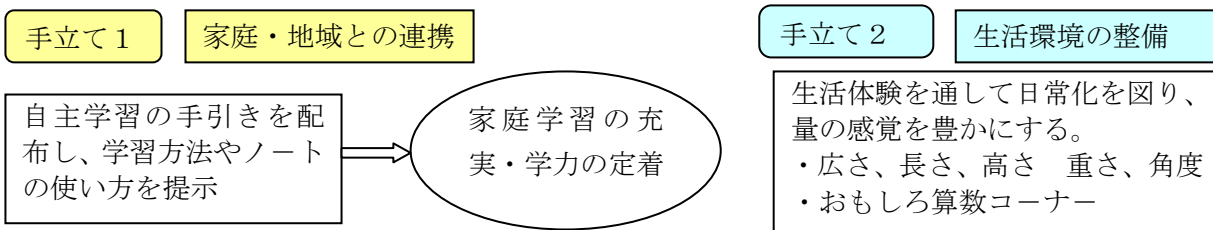
聞き手のことを思って自分の考えを分かりやすく伝えることや話し手の考えを理解することを目標にした。

		
<p>〈話し合いの時間の確保〉</p> <p>教師が用意した反応例の活用、考えた理由やかかれた図の説明、考えをもったきっかけを発表するよう声掛けを行った。</p>	<p>〈発表の仕方の工夫〉</p> <p>考えの途中まで書いてある発表ボードに自分の考えを書き加えながら説明した。</p>	<p>操作のある学習では、大型モニターに手元を映したり、自分の考えのノートを映して説明した。</p>

○発表を聞くだけでなく、中・高学年では、友だちの考えをノートに取る時間を設けることで、自分にはなかった解決方法を理解できるようにした。自力解決の難しかった児童も、友だちの考えを書き写すことで気付くこともあり、このことで、多様な見方ができるようになるだけでなく、友だちを認めることにもつながると考えた。

(2) 生活環境

目標を「生活環境を整備し、学習の日常化を図れば、基礎的基本的な知識及び技能が身に付くであろう。」とした。



Hand 3: 基礎学習〈集中して取り組む朝自習〉

Hand 4: 全校漢字・計算テスト

水曜日と金曜日の朝は、基礎学習としてドリルやプリント学習を行い、自分の課題をもって真剣に取り組んでいる。

学期末に全校漢字・計算テストを実施し、基礎基本の定着を図っている。90点以上で合格。保護者の協力を得て練習に励んでいる。

4 成果と課題

- ・学習の進め方が分かり、見通しをもって学習を進められるようになった。
- ・問題文からどのように考えたらよいかイメージを持ち、条件整理を行い、図、数直線、式に表す手順が分かってきた。
- ・ノートの使い方を各学年ごとにそろえて指導することにより、学年が変わっても同じように指導が進められる。
- ・隣の人と話し合うと自身が持てて、発表できるようになった。
- ・生活環境を整え、体験を通して日常化を図ることで、量感を養うことができた。
- ・算数以外の教科においても言語活動の充実を図っていくことが必要である。
- ・家庭学習の工夫や充実のために各家庭の協力をさらに得られるように努める。